

瓦じゃーなる

no.7

発行:日経工務店有限会社
2017年6月24日(土)

こんにちは、おかだです。むしむしと暑い日が続いてますが、みなさんどのようにおすごしでしょうか？色々暑さ対策は、ありますが、身体に負担がすくないように過ごしていただけたらとおもいます。(^-^)



先日、奈良市にある率川神社(三輪明神さんの境外摂社)のゆり祭りに行ってきました。三輪さんの宮司さんから、毎年、招待状が届きいつも欠席しているの、今年は、参列させていただきました。祭りは本殿の前で巫女さんが舞って宮司さんたちが

祝詞をあげ

最後にゆりの花と食事のお膳をお供えして、と、厳かな感じでした。祭り自体の意味はあまりわからないのですが、古くからの行事らしくテレビカメラも来ていて撮影してました。この日は、日差しが強く風もなかったの、暑かったです。宮司さんも撮影されてる方も汗だくになってました。お供えしたゆりの花も少しクタクタになってるようなきがしました。行事がすむと参列された方と神社の方と懇親会があつて、美味しいお弁当をよばれて、帰ってきました。来賓されてる方はみなさん立派なかたばかりで少し気が引けてましたが楽しくすごさせていただきました。たまたま、横に座った方が三輪さんの近くで、昔から小料理屋を営んでるらしく、今は息子さんがされているそうで、今度行ってみたいと思います。





この間、知り合いが東京に転勤することになり賃貸マンションの一室を引き渡すことになったので、引っ越しの準備をしていると観葉植物の植木鉢の受け皿の後が、床板にカタになってのこってしまい、知り合いが自分で直そうとホームセンターのリペア用品（傷かくし的なもの）を買って修復を試みたら、なお、ひどくなってしまったので、ちょっと見てほしいと連絡がありました。床板は、普通のフローリングで合板の上に単板（うすくスライスした無垢の



板）を貼ったよくあるタイプのものでした。

リペアーの塗料が付着するようにとサンドペーパーでかきこすったらしく表面がザラザラになってる状態でリペアー専門の職人さんに診てもらいました。休日にもかかわらずこちらよくひきうけてくれて、おしゃべりの好きな職人さんで端でまじまじと作業を見てるのにもかかわらず、作業の終始ずっと、色々な話をしてくれました。修復の範囲は、はがき2枚くらいの範囲なのですが、リペアーはその3～4倍の範囲を板の溝に沿って1枚1枚仕上げていくという工程でした。最初にシンナーで余分な汚れをとったあとエアースプレーで何

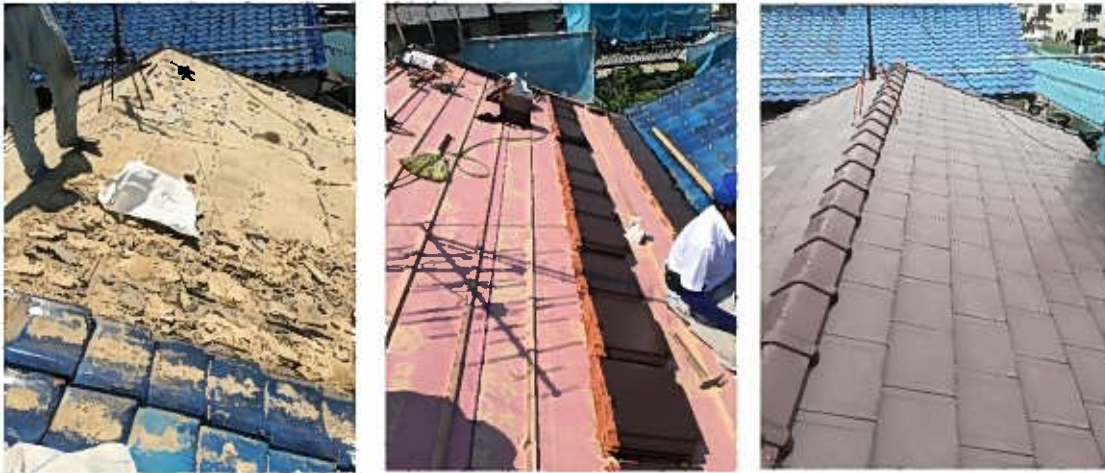


度も薄く着色をして床板の色に近づけていき修復箇所と周辺箇所をばかして着色完了です。これだけでも、十分わからないのですが、この後フローの木目をデザインペンで細かく再現していきます。これは見てておもしろいです。

話を聞くと職人さんのご家族は、美術系のお仕事をされている方が多く、職人さんご自身も元々、古美術（古伊万里、鉛ガラス）の修復にたずさわっていて今の仕事にかわったそうで、変わりたての頃は、同業者が少なく単価が、ものすごくよかったです。当時の楽しい思い出話をたくさんしてくれました。

屋根の軽量化

先日、屋根にで作業していた職人が近所の奥さんが雨漏りがしているのでみてほしい言われて寄せていただいて、上がらせていただいたのですが、屋根瓦がずれていてたくさんスキマがありました。土も力がなくガサガサだったので、葺き替えさせていただきました。平板瓦で釘で固定する瓦なので屋根土がなくなり、屋根自体も大分軽量化を図れたと思います。もちろん、どんなゲリラ豪雨でも雨漏りの心配もありません。(^ o ^)



最近、屋根を軽くして家の荷重を軽減するのが主流になってきました。これは耐震からの発想で布基礎やべた基礎でどだいと柱が緊結されている家屋には、効果があります。旧家のお屋敷や古くからの寺社仏閣はのべ石や基礎石の上に柱が乗っているだけの状態なので建物自体を固定するのにある程度の上からの荷重が必要です、なので柱や梁がちゃんと機能していれば、それほど軽量化にこだわることもないと思います。現建築基準で耐震基準をクリアしようとする

と屋根の軽量化に合わせてのべ石や基礎石から鉄筋コンクリートのべた基礎などにして土台を新た設置するなど大事になり費用もおおきくなります。その家々によって屋根の軽量化を含め補強の仕方もかわってきます。



ルーガ（雅）この瓦もものすごく軽いです。

匠史の 道具箱



金槌には、いろいろ種類があり、釘を打つものから、瓦や石を割るもの等たくさんあります。大工の使うものでも小さい釘を打つものから大きいくぎを打つものなど使い分けるように種類があります。(今は、頭の径が24ミリ~30ミリのものが多いです。)家の柱や梁を手で刻んでいる時は、大きいノミを叩くのに玄翁を使っていました。以前 手伝ってくれてい大工さんたちの年季の入った玄翁や金槌が倉庫にたくさんあります。

玄翁や金槌も本職用、DIY用様々なので値段も安いことから高価なものいろいろです。本職のものは鋼が入っているので頑丈ですが、日曜大工のものは、焼き入れがしてないのか、釘を打った時の跡かたでデコボコしてきます。先輩大工が使っていたものは、もちろん本職用なので、少々硬いものを叩いても欠けません。本来の使い方とは、ちがいますが、倉庫で錆びさすよりはいいかと思い、解体や瓦を割るのに使わせてもらってます。

(見てたら怒られそうですけど)金槌の頭もなのですが、職人さんみんな柄にこだわっていて、自分の握り易いように太さや長さをカンナで削ってつくります。大体、材質で多いのは、硬い樫の木が多く、市販されている柄付きの金槌は、大体これです。大工が削って据えている柄は、グミの木の枝が多く、弾力性があるって、手に負担がかかりにくく疲れにくいからです。他にも山桜やミカンの木を柄にしてる職人さんもいます。今はメーカーのつくるグラスファイバーの柄のものも多く、柄を据える職人さんも大分少ないですが、金槌1つにとってもその職人さんのこだわりがうかがえます。



グラスファイバーのもの



木の柄のもの



金槌の柄 各種